



渚滑っ子

学校HPコード



教育目標：人間性豊かな児童の育成

～気付きをつなげる子どもの育成～

令和7年11月25日発行

文責：校長 木村 智史

信頼とは…。

他人と話をしている、「あ、これ嘘だ…。」と直感が働く瞬間はありませんか。言葉と行動が矛盾していたり、過剰な言葉の演出に違和感を覚えたりした瞬間にその直感が働くことがあります。

例えば、「行けたら行く！」そう言って高い確率で来ません。

「怒らないから正直に言って。」正直に言うのと顔が引きつり、結局怒られることが多いパターン。

「ここだけの話だけど…。」すでに2、3人に話している可能性が高いです。(笑)

この話を「学校」に置き換えたとき、どんな場面があるでしょう。

学校からリリースされる情報、特に校長から学校だよりやブログを通して、保護者の皆様にメッセージを届けることがあります。

よくある言葉が、「子ども達が安心して通える学校にします。」や、「お客様のことは何でも相談してください。」などです。私も渚滑小学校に赴任して、この言葉を使ったことがあります。

さて、この通信を読んでいる読者の方、この言葉を聞いて、「嘘くさいな…。」と感じますか？

『そう言ってるけど、相談できる雰囲気じゃない…。』とか『子供は学校に行きたがらない…。』など…。

校長として、子どもたち一人ひとりの笑顔と健やかな成長のため、教職員とともに「安心・安全な学校づくり」に全力を尽くすことを改めてお約束いたします。

もっともらしい言葉ですが、この言葉をみた渚滑小学校に携わる保護者や子ども達、地域の人達が、「きれいごと言って…。」と疑心に思わないような、「言葉と行動がともなっている学校」でありたいと思います。(※ちなみに、上記枠内の言葉はAIが作成した言葉です。)

先生の葛藤…。

先生方の悩みは多岐にわたります。私もそうでした。担任する子供たちの指導、助言を振り返り、「言わなきゃよかった…。」と自己嫌悪に陥ったり、「こうすべきだった！」と後悔したりしたものです。

先日、放課後に職員室である先生とこんな話をしました。

「校長先生、すいません…。〇〇さん(担任する子)を泣かせてしまったんです。」

とのこと。

事の経緯をたずねました。すると、生活面で、担任と約束したこと、本人も納得の上だったことをないがしろにするような言動があったので、それを問い、自分の思いを伝えたというのです。

私はその話を聞き、思ったことを伝えました。

私は、先生が話した内容も行動も間違っていないと思います。きっと、〇〇さんも、グサッと心に刺さって、我を振り返ったんだと思いますよ。先生は、〇〇さんの懐(心)に入れることができるから。その関係を、日常的に作っているから、文句なんて一つもないでしょうね。

「だめだよそれじゃあ。」「甘たれるんじゃない。」って言われることって生きていくうえで大切だと思うし、それを言える人であるために、子供や保護者と関係を作っておくべきだと思うんです。信頼される、尊敬し合う仲です。

この考え方が一般化できるかは分かりませんが、この先生にも信念を感じました。毎日笑顔を絶やさず、悩みながら子ども達と向き合っている全職員の姿を私は目の当たりにしています。そして、悩みも、嬉しさも共有できる「喜怒哀楽の場」が渚滑小にはあります。



放課後、学習の指導法について知恵を寄せ合って、先生も学び…、



子供の反応を見取り…、
休み時間は、先生も子ども達も一緒に夢中になって遊び、笑い…。



こういう環境ですから、子ども達は、「安心して学ぶことができる」のだと思います。



地域の方々に黙っていても応援される場所であるために、学校にかかわる人たちが学び続ける場所であるために、尽力していきます。

令和9年度義務教育学校開校に向けて、小中学校教員が3つの部会に分かれて動き出しています。

あらためて、お伝えします。

「つながる学校・信頼される学校・成長できる学校」を目指します。

この言葉、嘘くさいですか。

